

質問 1-1 今後、大戸川ダムはどのような計画に変更されるのでしょうか。

(回答)

- これまで治水、利水、発電を目的としたダムとして事業を進めてきましたが、利水の撤退等に伴い、今後は洪水調節専用のダムとして事業を実施していくこととしています。
- 洪水調節専用ダムとするにあたっては、コスト縮減の観点から計画の見直しを行い、常時水を貯めない流水型のダムとしています。
- 地形・地質や経済性も含め、ダムサイトを検討した結果、上流へ約 900m 移動させることにより、元の計画の場所で洪水調節専用ダムを建設する場合のダムの高さ 83.5m よりも、大幅に小さい 67.5m まで縮小することが可能となりました。また、ダム本体の堤体積では、約 600 千 m³ から 240 千 m³ に大幅に縮小されました。
- 新しいダム計画では、流水型ダムとして常時河川の水を流すこととしており、河川の連続性を損なわないように、今後詳細な検討を行っていく予定です。
- 洪水調節の方法は、常用洪水吐にゲートを設け、洪水を 280m³/s の一定量で放流する計画であり、今後、流木対策、放流口の位置・大きさ・閉塞について、洪水調節機能、土砂の流下を踏まえて、今後詳細な検討を実施します。

(関連資料)

- 平成 19 年 9 月 26 日 第 63 回淀川水系流域委員会 審議資料 2-1
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index.html#63th>
- 平成 19 年 11 月 26 日 第 67 回淀川水系流域委員会 審議資料 1-3-4
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index.html#67th>
- 上記資料は、大戸川ダム工事事務所ホームページでもご覧頂けます。
<http://www.kkr.mlit.go.jp/daido/think/tyosakento.html>
資料名 : 【H19. 9. 19】大戸川ダム建設事業(pdf・1.5MB)
 【H19. 11. 26】大戸川ダム建設事業について(pdf・2.7MB)

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。